

## 式辞

まず、このコロナ禍で、尊い命を亡くされた皆様のご冥福をお祈りし、現在闘病中の皆様の早期の回復を祈念すると共に、日々奮闘を続けておられる医療従事者の皆様を心から応援して、一日も早く感染の波が終息することを、強く願います。

このような状況ではありますが、本日、第四十六回の卒業証書授与式を、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご参列の下、開催できますことに、心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。二一二名の名前が一人ずつ呼ばれ、誇らしげに返事をして立つ姿に、心から感動しました。コロナに振り回された一年ではありましたが、みなさんの成長した姿はとても立派なものです。

二か月間の休校期間のために、令和二年度は十か月間となりました。多くの活動が延期や変更を余儀なくされ、不安な日も続いたことでしょう。でも、みなさんは新しい形で全ての行事を成功に導いてくれました。短い一年だったけれど、濃密な仲間との時間を過ごせたのではないでしょうか。秋に実施した信州方面への修学旅行は思い出深いものとなったことでしょう。あなたたちと共に体験したさわやかな秋の信州の空気は3年生の教職員を始め、大人にとっても忘れられないものとなりました。ありがとう。また、学年ごとの開催となった合唱コンクールや体育大会でも卒業生のみなさんは力を発揮してくれました。体育大会の様子は本校としては初めて、動画配信にも挑戦しました。それ

までできていたことの多くは変化しましたが、新たにできることも増えた一年間ではなかったでしょうか。先週の木曜日、三年生を送る会が実施されました。この一年で初めて全校生徒が一堂に会し、学校敷地内全体に素晴らしい歌声を響かせてくれました。コロナ禍だからこそできた感動的な送る会でした。

みなさんは九年間の義務教育最後の年にしっかりと足跡を残してくれたことになります。新たな伝統を作り上げてくれたことに心から感謝いたします。

三年間という、短い月日でしたが、みなさんにとって大切な、人生の一ページに関わることができたことは、全ての教職員の喜びであり、誇りです。

今後の活躍を期待されるみなさんにお願いがあります。

今年は東日本大震災から十年を迎える年です。当時、みなさんは幼く、その記憶に残っていることはあまりないでしょうが、映像や資料から大災害が起ったことは理解しているでしょう。遠く離れた東北地方で起こった地震はこの学校でも感じることができました。つい先日にも、東北地方で大きな地震が起きました。十年前の余震がまだ続いているとの見解でした。災害や新たな感染症など、私たち人類の心を挫くような出来事はこれから先の未来にも多く起こることでしょう。でも、人類はどんなことが起こるとも必ず立ち上がってきました。コロナに振り回されて気持ちの挫けることが多かった、みなさんの世代だからこそ、そのつらさがわかり、困っている人に寄り添える世代となれるでしょう。人は自らのためだけに生きていては、常に不満が募ります。他の人たちのために生き、共に涙し、笑い合える人になってください。今年度多くの場面で抑制を強いられたみなさんだからこそ、そうなれるものと確信していま

す。「頑張る」という、我が国特有の行動は挫折から生まれます。がんばってください。

ご来賓の皆様におかれましては ご多忙な中、早朝よりご臨席を賜り、誠にありがとうございます。平素から、物心両面共に、本校の教育ために、お力添えを賜っておりますことに、高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。今後とも、生徒たちの成長を見守りながら、励ましのエールを送つていただきますよう、よろしくお願ひ致します。

保護者の皆様に一言お祝い申し上げます。本日は、お子たちのご卒業、まことにおめでとうございます。この三年間で、お子たちは心身ともに大きく成長し、このような立派な若者となられました。

今後、お子たちが、さらに一層、大きく成長されますことを、教職員一同、心よりお祈りしております。

卒業生のみなさん、みなさんが巣立つのは地域の公立中学校です。地域住民の方々がその支えとなり、みんなの成長に期待しておられます。期待してくれた人々への恩返しをすることがこれから役割です。この地域の発展のために寄与してください。

結びに、ご参列の皆様とともに、巣立ちゆく卒業生諸君の、今後の「活躍」と「限りない前途」を祈念し、本日の式辞といたします。

令和三年三月十五日

京都市立桜原中学校

校長 松井 剛史